

## 1. 《2004年経済展望》 (p. 1)

### ① [2004年アメリカ経済は順調、しかし…]

2004年のアメリカ経済は景気循環サイクルと大統領選向け景気対策で順調な成長を続けるが、史上最大の双子の赤字によるドル崩壊のおそれもある。

### ② [アメリカの双子の赤字を一手に支える続ける日本]

日本政府は今年79兆円、来年は140兆円を超えるドル=米国債買いで米赤字へのファイナンスを続けるが、何らの米国からの対価も得られないまま。

### ③ [ドル離れしたマネーは石油、ユーロ、円等へ]

2002年以来の主要通貨に対するドル安トレンドは2004年も続く。石油、金などの国際商品や、ユーロ、円、資源国(豪、加など)の国債にマネーが集まる。

### ④ [日本経済は「復活」、しかし深刻な二極化]

日本経済は失業率5%、勝ち組と負け組への二極化が進む新たな成長軌道に入る。富士崩壊で一部地銀に巨額の焦げ付きが出るおそれあり。

## 2. 《浅井隆、副島孝彦に騙されるな!》 (p. 6)

彼らは外資系金融資本の広告塔であり、その著作はスポンサー企業の大量買いによって「作られたベストセラー」となる。浅井隆の推奨する投資による被害者の会も結成されるなど、彼らの言説に騙されてはいけない。

## 3. 展望①国内情勢 (p. 7)

① [自衛隊イラク派遣と公明党の動向] イラク派兵に消極的な神崎公明党代表は、米軍によりイラク視察強要、冬柴幹事長は連立離脱を示唆し、党内大混乱。

② [小泉の決断と皇室] 2外交官殺害とH2Aロケット打ち上げ失敗を、自衛隊派遣への米国の強烈的な圧力と捉えた小泉は、憲法の枠内での派遣を陛下に内奏。

③ [自衛隊内の「人柱」論争] イラクでの犠牲者発生不可避の状況の中で、自衛隊国軍化を推進する自衛隊幹部の動きあり、米国防省もバックアップ。

## 4. 展望②台湾独立問題と北朝鮮 (p.11)

台湾海峡の現状維持を声明したブッシュ大統領と、中共の米国債買い、そしてブッシュ兄弟への投資。北朝鮮問題と台湾独立の関連と中東紛争の行方。

## 5. 展望③フセイン逮捕劇とその後 (p.14)

逮捕されたフセインは影武者だった可能性が大。今後大量破壊兵器の発見、ビン・ラーディンの逮捕もありえる。ブッシュ再選の舞台装置は整った。

## 6. 展望④第二次プーチン政権、 “強いロシアの復活” への見取り図 (p.16)

露下院選におけるプーチン与党の圧勝で、ロシア型統制市場経済強化へ。石油産業は抜本改革の上、欧米メジャーとの連携も視野に、資源依存型経済からの脱却を目指す。